

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名 : 社会福祉法人 啓和会 グループホーム清久

開催日時 : 令和 8 年 2 月 21 日(土) 13:00~16:40

開催場所 : 久喜けいわ(機能訓練棟)

構 成 員 : 利用者 2 名

利用者家族 1 名

地域関係者 1 名 (近隣地域住民)

福祉に知見を有する方 1 名 (老人福祉サービスケアマネージャー)

市町村関係職員 1 名 (基幹相談支援センター職員)

出 席 者 : 事業所職員 4 名

議 題 : 1. 開会、事業所長あいさつ 地域連携推進会議の目的説明

2. 出席者自己紹介

3. グループホーム見学と利用者聞き取り

4. 議事

(1) 事業所説明

① 施設等やサービスの透明性・質の確保

② 施設と地域の連携

③ 利用者の権利擁護

(2) 地域からの要望

(3) 質疑、意見交換

5. 閉会

○グループホーム見学(7 ホーム)と利用者聞き取り (1 ホーム)

【見学後の意見・感想】

- ・各ホーム清潔感があって良かった。
- ・利用者が元気よく迎えてくれて嬉しかった。
- ・情報提供や怪我、災害など緊急時のマニュアルがどこのホームも統一されている。避難訓練も定期的に行われているようで、安心できた。
- ・見学者に対して家族の一員のように接してくれているようで安心できた。
- ・各ホーム毎に個性があって、職員の対応が大変のように感じた。

【利用者 職員聞き取り】

(利用者)

- ・お小遣いのことで悩んでいること

- ・イルミネーション外出ができてうれしい、初めての経験だった。
- ・モラージュとアリオに自主外出している。
- ・買い物のお小遣いで、担当職員と意見が食い違うことがある。

○議事

(1) 事業所説明(パワーポイント)

① 施設等やサービスの透明性・質の確保

- ・入居者の平均年齢や男女比、障害区分、日中活動の傾向
- ・職員の体制や仕事内容
- ・福祉サービスの利用(介護保険・移動支援・行動援護)
- ・法人内研修や事業所内研修(年に二回)、グループホーム会議などの実施
- ・職員面談の実施
- ・利用者勉強会の実施

② 施設と地域の連携

- ・清久婦人会との交流
- ・地域の祭りや防災訓練に参加
- ・区の広報誌をポスト投函

③ 利用者の権利擁護

- ・事故やヒヤリハットの対応と対策
- ・苦情の対応と対策
- ・ホーム会議(2カ月に一回)の実施
- ・希望外出(余暇支援)の実施
- ・看取りの実施

(2) 地域から過去にあった苦情の報告

- ・ゴミの出し方
- ・たばこのポイ捨て
- ・ホーム周辺の車の止め方

(3) 質疑、意見交換

【福祉に知見を有する方】

- ・(パワーポイントの説明を受けて)本人の気持ちを尊重して、適切な福祉サービスが提供できているように感じた。利用者が慣れた環境で生活できることも良いなと思った。

(返答) グループホームの職員だけでは支援に限界があるため、その人に合ったサービスを提供できるよう心掛けている。担当のケアマネジャーには本当に感謝している。利用者の気持ちを尊重し、生活いただけるように今後もサポートしていきたい。

【家族関係者】

- ・利用者の看取りも行っていることに驚いた。看取ると決めた経緯やどんな気持ちで臨んだか？

(返答) 職員も初めての支援だったので不安が多かった。入院も検討したが、利用者が点滴をすごく嫌がっていて、それを見て、「グループホームで看取るしかない」と決心した。医師から「グループホームで最後まで生活できることは素晴らしいこと、今後の職員の教育に役に立つ」と助言してもらったことも大きかった。障害、医療、介護の分野からサポートいただき、最後まで支援できたと感じている。

- ・夜勤者がいるホームといないホームの利用者の選別はどうしているか？

(返答) 夜勤者がいないホームは、日常生活の支援の度合いで判断していることと、危険の判断ができるかで選別している。今後高齢化が進み、日常生活での支援が多くなると、夜勤者がいるホームで生活する方が増えていくと予想される。

【市町村関係職員】

- ・余暇支援などで利用者の希望を叶える取り組みをしていると思うが、その人の可能性が広がったり、職員の汲み取り方や意識していることは何か？

(返答) 障害を持った人々は、様々な制限を受けて生活してきた。私たちは、利用者には様々なことを経験してもらいたいという気持ちがある。その中で、選択肢を広げてあげることが意識的に取り組んでいる。したいことができると、利用者の生活のメリハリにもつながってくる。利用者に提示するときには、職員の聞き方の工夫が必要。例えば、「なにがしたい？」と聞くと、今まで経験したことの中から選択をする。そのことは、悪くないが、もう少し選択肢を増やして、増やした中から選べるようにしていきたいこともある。意思決定で言うと、意思形成支援になる。そこに力を入れている。色々な場面で意思決定はあるが、一番余暇の支援が考えやすい。利用者が普段口に出していることや(好きなテレビ番組など)言葉を聞き逃さないように、職員もアンテナを広げている。

【地域関係者】

- ・苦情などの問いをしたが、「特になし」と返答があった。